

Application for Participation (日本語版)

Associated Schools Project (ASP)

for Promoting International Education

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

I Description of the Project (プロジェクトの概説)

1 吉城高校及び飛騨市の概要

岐阜県立吉城高等学校は、清流宮川が流れる古川盆地を臨む安峰山麓の高台に位置し、飛騨市古川町の歴史ある美しい町並みが一望できる。

吉城高校が立地する飛騨市古川町は、毎年桜の季節に「古川祭」が行われる。この祭りは「国指定重要無形文化財」に指定されており、現在、「ユネスコ世界無形民族文化遺産」への登録を申請中である。祭りでは勇壮な「起し太鼓」、煌びやかな「屋台曳き揃え」、「子ども歌舞伎」などが行われ、この季節には、地元の高校生も伝統行事の役割の一端を担う。

吉城高校は、生徒急増期には1学年7学級であったが、現在は、普通科3学級、理数科1学級の1学年計4学級の小規模校である。しかし生徒一人一人の進路希望に応じたきめの細かい指導により、地元の進学校としての実績を保っている。

2 吉城高校が取り組むESD (Education for Sustainable Development)

～「吉城高校地域活性化(YCK)プロジェクト」～

飛騨市では、大学等へ進学した子どもたちが地元就職せず、少子高齢化が進んでいる。このため吉城高校では、「地域に根付いた、地域に愛される、地域に貢献できる学校」を目標に、2015年より「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」と称し、飛騨市と連携しながら「地域観光」、「地域福祉」、「地域教育」、「地域防災」の4本を柱に地域の課題解決に取り組んでいる。これら活動は、高校が地域の活性化に貢献するだけでなく、生徒が将来、持続可能な社会の形成者として、地域を支え、地域の発展に貢献できる有意な人間となるために必要な学習(=ESD)と考える。

II Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

目的の1つは、計画的・継続的・総合的なESDの展開によって、生徒が様々な価値観や能力を身につけることであり、2つめは、この取組みによって、高校教育の質を高め、地域社会の活性化及び持続可能な発展に貢献することである。

1 生徒に身につけさせたい価値観や能力

(1) ESDの推進により期待する価値観や能力

- ① 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)とコミュニケーション能力

- ② 持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）、協調性や思いやりの心
- ③ 地域社会の発展を担い支えようとする責任感とリーダーシップ

(2) 校訓「行学一致、自主・創造、心身の錬磨」に基づき、身につけさせたい能力。

- ① 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。
- ② 豊かな心の育成と健康、体力の増進を図る。
- ③ 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。

2 学校の教育力向上と地域への貢献

(1) プロジェクトへの取組みによって期待される学校の活性化と教育力の向上

- ① 生徒や保護者、地域に対する学校の教育方針の明確化
- ② 小中学校、特別支援学校、大学等、関係教育機関との交流と連携
- ③ 地域の教育資源の有効活用やユネスコスクール加盟校との連携の機会の拡大

(2) 地域への還元が期待できる効果

- ① 高校生の地域でのボランティア活動による地域の活性化
- ② 地域の教育機関が共通の目的のために連携・協力する体制づくり
- ③ ESD を学んだ生徒が、将来、地域に定住し地域社会を支えるという人材の還元

III Execution（プロジェクトの実施）…年間計画など活動の内容

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

吉城高校の進める ESD の 4 本の柱「地域観光」、「地域福祉」、「地域教育」、「地域防災」の具体的な活動を以下に示す。

(1) 地域観光



写真部が古川祭りの練習風景を取材



古川駅前での観光案内ボランティアガイド

地域の伝統文化の継承のため、「古川祭り保存会」の方々を学校に招いて講演会を開催したり、写真部が祭りに関わる活動取材し発信している。また、近年、外国人観光客の増加に対応し、英語の授業の一環として、飛騨市と連携し、古川駅前の観光案内所で、高校生が外国人観光客に観光案内を行うボランティア活動を行なっている。

(2) 地域福祉

近隣の老人福祉施設である「和光園」を定期的に訪問し、お年寄りの方々と一緒にゲームを楽しんだり、呈茶、清掃活動等の交流を図っている。また、吉城特別支援学校の小学部の生徒と遊ぶ「スマイル広場」等を実施。今年度は、吉城特別支援学校の生徒が生産活動で作った作品を本校の文化祭で展示及び販売するなど様々な交流に取り組む。これらの活動を通し、人を思いやる心や感謝する心など、広く福祉マインドを育み、将来の地域を支える社会人としての能力と態度を育む。



福祉施設のご老人との交流



駅前の清掃活動

(3) 地域教育

長期休暇に本校生徒が地元の小中学生に勉強を教える「高校生学習サポーター」や、理数科の生徒が実験などを通して科学の面白さを伝える「小学生サイエンス教室」を実施。また、理数科生徒の課題研究発表会は、地域の公民館で中学生や市民を対象に公開して行われる。同じく理数科では、飛騨市の神岡町にあるノーベル賞を受賞した研究を行っている東京大学宇宙線研究所（通称「カミオカンデ」）を見学し最先端科学に触れる機会を設けているが、その研究者や大学院生を招いて、高校生が学習支援を受けるなど、地域の教育関係機関が互いに連携協力した学びの環境づくりに取り組んでいる。



高校生学習サポーター



小学生サイエンス教室



東京大学宇宙船研究所（カミオカンデ）の施設見学と講義

(4) 地域防災

吉城高校地学部では、古川盆地を野外調査する中で、「古川国府盆地の地下に伏在活断層があり、その西側が沈降する」との仮説を立て、地形発達史の関係から盆地の地形の説明を試みた。比較的地震が少ないと思われていた古川盆地にも伏在活断層があることが推測され、地域の方々の防災意識を高めることに貢献するとともに、学術的にも評価され、岐阜県科学作品展において、吉城高校科学部は2年連続(2014-2015)で最優秀賞を受賞した。

また、写真部を中心に、東日本大震災の被災地である南三陸を訪れ、ボランティア活動に参加したり、被災地を撮影し続ける写真家を学校に招いて講演会を開催した。「被災地の痛みを忘れない」という思いを込めて、被災地から送られたひまわりの種を学校や市民農園で育て、収穫した約400個の種をメッセージと共に風船に乗せて飛ばす「バルーンリリース」など、「ひまわりプロジェクト」に取り組んでいる。



写真部 収穫したひまわりの種



全校生徒によるバルーンリリース

IV Type of materials to be used (使用する教材)

E S Dの各テーマ毎に、地域の教育資源や人材を有効活用し、教育目標実現のために最適な教材を利用する。

(1) 地域観光に関わる教材

飛騨市観光協会が提供する既存の地図やオリジナルのガイドブックを使用したり、観光に関わる地域の方々を生きた教材として活用する。

- ① 飛騨市観光課が提供する観光パンフレット
- ② オリジナル英語ガイドブック
- ③ ぼんぼり夢街道の提灯作成
- ④ 古川祭り保存会の役員の方々



オリジナルのガイドブック

ぼんぼり夢街道の提灯
(生徒が作成)



(2) 地域福祉に関わる教材

地域の福祉施設を訪問し、職員の方々や入所者の方々との交流を教材とする。

- ① 養護老人ホーム「和光園」…飛騨市が指定管理制度で運営する施設
- ② 揖斐特別支援学校… 様々な障害を持った児童生徒が学ぶ県立の特別支援学校

(3) 地域教育に関わる教材

近隣の小中学校及び飛騨市神岡町にある国の研究施設及びその職員。

- ① 古川中学校、古川小学校、古川西小学校…飛騨市内の小中学校
- ② 東大宇宙線研究所（カミオカンデ）、大型低温重力派望遠鏡（KAGRA）

(4) 防災教育に関わる教材

- ① 古川盆地の地形図や生徒の野外観察で測量機器等で測定した得られた微地形図
- ② 東日本大震災の被災地の南三陸で生き残ったひまわりの種や耕作地

V **Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)**

1 評価の観点

- (1) 知識：福祉や国際社会、環境問題等について、基礎的・基本的な知識を身に付け、ESDに関する基本的な理念と意義を理解しているか。
- (2) スキル：学んだ知識や情報を、自身の身の回りの地域社会や学校、家庭において実践、活用できる技術や能力を身に付けたか。
- (3) 態度・姿勢：困難な課題に対して、主体的に取り組み、より良く問題を解決しようとする意欲と態度が育ったか。

2 評価の方法と時期

- (1) 学校評価（自己評価）：教職員により、年度初めに各分野で設定した目標及び数値目標を達成できたかを自己評価する。（1月）
- (2) 生徒・保護者アンケート：生徒・保護者による学校の取組みに対する評価。
(7月・12月)
- (3) 学校評議員による評価：外部の有識者である学校評議員4名による生徒の活動の参観や学校からの事業説明をもとにした外部評価。（6月、1月）

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(書類作成日)

Date (日付)

Principal's name
Position,
Institution's name